

P - 6

抗生剤や漢方剤のPropionibacterium acnes に 及ぼす細菌学的、電顕的影響について-(第8報)-

1) 富山医科薬科大学皮膚科 2) 金沢大医療技術短大部衛生技術学科
 ○松垣修一, 長谷川義典, 諸橋正昭¹⁾, 山岸高由²⁾

【目的】我々は痤瘡発生の主因子であるP. acnes に対し細菌学的に検討してきた。今までに、ガスクロマトグラフィーを用いた新しいP. acnes リパーゼ活性測定方法を報告しそれを用いた漢方薬や漢方生薬のP. acnes リパーゼ活性の抑制の度合い、さらには痤瘡に頻用される漢方薬や漢方薬のP. acnes に対する抗菌作用を検討してきた。今回、漢方薬と抗生剤を混合した培地でのP. acnes のリパーゼ活性に対する影響や漢方薬添加培地上のP. acnes の形態的变化について検討を加えた。

【材料と方法】痤瘡患者の顔面皮疹より分離同定したP. acnes を材料とした。抗生剤及び漢方剤には痤瘡に頻用されているミノサイクリン, 十味敗毒湯を使用した。0.017meq/ml量のトリブチリン添加P Y G培地に各種濃度のミノサイクリン, 十味敗毒湯の一方あるいは両方を添加し, 各々培地間で産生されるプロピオン酸, 酪酸産生量を測定し比較検討した。さらに, P. acnes を低濃度十味敗毒湯に作用させ, 形態的变化を透過電顕, 走査電顕にて観察した。

【結果】(1) 各培地とも経時的にプロピオン酸, 酪酸産生量は増加した。
 (2) 十味敗毒湯及びミノサイクリン添加P Y G培地におけるプロピオン酸, 酪酸産生量の低下度は十味敗毒湯添加P Y G培地やミノサイクリン添加P Y G培地より高度であった。
 (3) 低濃度十味敗毒湯をP. acnes に作用させた結果, 走査電顕では特に異常所見がみられなかったが, 透過電顕で変性, 壊死像がみられた。

【考察】(1) 十味敗毒湯のP. acnes に対する抗リパーゼ作用は黄連同様¹⁾に二次的であった。
 (2) 十味敗毒湯及びミノサイクリン添加培地上では, P. acnes リパーゼ活性抑制に対しての相互減弱作用はみられなかった。
 (3) 低濃度十味敗毒湯でも, P. acnes リパーゼ活性に対しての影響が透過電顕像より示唆された。

【文献】(1) 松垣修一, 他: 黄連のPropionibacterium acnes リパーゼ活性に及ぼす影響について, 日皮会誌 100:883-886, 1990.